

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をホーム内に提示し常に目に入るようにしている。理念の実践に向けて職員は毎月の目標を立ててご入居者様、ご家族様の意向をくみ取り信頼関係の構築に努めている。	理念については来訪者の目に触れるよう玄関とエレベーターホールに掲示し共有と実践に繋げている。また、法人理念や母体ともいうべき病院が出来た生い立ち等について勉強会を行い、理念の持つ意味を十分理解し意識を高め、支援に取り組むようにしている。また、新人職員に対しては指導職員より理念に沿った業務研修を行い、業務内容の習得に繋げるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は新型コロナウイルス感染拡大につき地域との繋がりを制限せざるを得なかったが、近隣の社会福祉協議会のイベントのお知らせをいただきご入居者様作成の絵の出展や見学を行えた。	開設以来地域行事に積極的に参加し地域の一員として活動している。現在は新型コロナの影響を受け殆どの地域行事が中止となり残念な状況が続いている。そのような中、町の作品展が再開され徐々に全員で外出のひと時を楽しんだという。また、数名の専門学校生の職場体験が5日間あり、介護全般にわたり利用者との交流を図っている。合わせて高校生の職場体験の来訪も3日間あり、介護体験を通じて利用者とのふれあい貴重な時間を過ごしている。コロナ収束後は地域行事への参加や地域ボランティア等の受け入れを積極的に再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染拡大予防の為、地域の人々に向けての活動に制限があったが、地域の作品展にご入居者様作成の絵を出展したり運営推進会議資料の中で支援内容や活動の報告を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議資料を作成し、本年度は資料配布に留まっている。新型コロナウイルス感染の拡大状況を見て運営推進会議の再開検討中。	昨年の春以降、新型コロナの影響を受け書面での開催となっており、利用状況や活動の報告等を写真を添えて書面にし会議参加メンバーにお届けし、意見などを頂きサービスの向上に繋げている。そのような中、コロナの感染状況の落ち着きを見て、2月より対面での会議開催を予定しており、現在実施内容の充実を図るべく検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から支援やサービスについての報告・連絡・相談を行っている。また医療機関への受診・入院が必要なインシデントについては担当者へ書面の提出と状況説明・対策説明を行っている。	町福祉課には新型コロナの感染対策、事故報告、利用者の入退去状況等、様々な事柄について相談している。介護認定更新調査は近隣3つの自治体の調査員がそれぞれ来訪し行われており、家族から事前にお聞きした話を職員が説明し行われている。町の介護相談員の来訪も現在は中止状態になっているがコロナ収束後には再開する予定である。	

認知症対応型共同生活介護事業所「やまびこの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を実施しないケアに努めているが、安全の為、玄関、エレベーターは施錠している。入職時と定期的に法人での研修に参加し支援に生かしている。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。帰宅願望の強い方がいるが近隣を散歩したり職員が優しく話を伺うことで対応している。フロア内に職員が誰もいない状況を作らず、必ず1名はいるように心掛け、きめ細かな所在確認を行い安全確保に繋がっている。転倒危惧のある利用者がいるが安全確保のため家族と相談の上人感センサーを使用している。年1回の法人の研修に加え、毎月のユニットミーティングの席上、拘束について話し合い、意識を高め拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修での学習、外部研修や全体ミーティングで虐待についての勉強会や意見交換を行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用中のご入居者様はいないが、職員は法人での研修や外部研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居前より不安や疑問点についての相談を行い、契約時に契約内容、重要事項の説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話等でご入居者様の様子を伝え意見や要望はお聞きし、頂いた意見や要望はその都度話し合い反映するようにしている。	家族から聞いた情報を参考にし日々の関わりの中で思いを受け止めユニット会議の中で情報を共有し利用者個々の要望に沿えるよう取り組んでいる。家族の面会は現在県内居住の家族については事前に連絡を頂き、ワクチン2回接種済みを基準に2週間以内の行動履歴を確認し、フェイスシールドを使用いただき短時間の面会を再開している。また、県外居住の家族については窓越しでの面会をお願いしている。そのような中、ホームの様子については毎月発行されるお便り「やまびこ通信」でお知らせしている。利用者一人ひとりの様子は電話で話しているが個人別のお便りを行うことも考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングで意見や提案を聞く機会を設け、それとは別に個人面談で職員の提案を運営に生かしている。	現在は密を避けるため全体会議でなくユニット会議を行い、連絡事項、各種勉強会、カンファレンス等を行い、業務内容の向上に繋がっている。法人として人事考課制度があり、職員は年間目標を設定し半年に1回自己評価を行い、それに従い管理者による個人面談が行われ、様々な事柄について話し合いモラルアップに繋がっている。また、新人職員については半年毎に個々の目標設定を行い、自己評価の後、ホーム内の指導職員よりチェックと指導を受け、知識やスキルの向上を図り資格取得に繋がっている。更に、年1回職員対象のストレスチェックが外部機関に委託して行われ、職員のメンタルヘルス面でも力を入れ取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員との面談を実施しており、職員の業務への取り組みや意見を聴取し、改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の外部研修、資格取得に向けた支援がある。専門職の協力を得て介護技術研修を月1回は実施している。年間計画で新人研修、法人での研修に加え外部研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や外部研修参加時に交流している。今後、法人が開催する職員研修会へ外部施設の方への参加頂ける様計画している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前訪問を行い、またご本人様・ご家族様よりアセスメントシートに記入していただき不安や要望をお聞きする。入居時には再度ヒアリングを行い不安や要望に応じている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前訪問と入居前にアセスメントシートにご家族様に記入していただき、ヒアリングし、入居時に再度ヒアリングを行い不安や要望に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入時にご本人様・ご家族様からヒアリングし要望を把握し、自立支援に向けた支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の長所を生かし、ご入居者様と職員は協力して家事（食事作り、後片付け、掃除、洗濯たたみ等）を行っている。またご入居者様同士の関係の構築にも努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため直接的な面会制限があり、ご家族様とは電話連絡や手紙での連絡を取っていた。ケアプラン立案時や更新時、状態変化のあった時はご家族様の意見をケアプランに反映させている。		

認知症対応型共同生活介護事業所「やまびこの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人との交流、なじみの店へ理髪や買い物にご家族様や職員同行で外出の支援を行っていたが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大につき地域との繋がりがやなぎのりやなじみの人や場所との交流を積極的に行えなかった。	現在はコロナの影響を受け友人、知人の面会は自粛状態が続いている。そのような中、ヘルパー資格を持つ理容師の来訪が月に2回あり利用者とも顔見知りの関係が構築されており感染対策を取った上で利用者も会話のひと時を楽しんでいる。また、年末に向けクリスマスカードや年賀状を職員と共に手作りし家族に発送する予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士で家事やレクでの共同作業を通じて、また食事の席等で会話できる環境の提供し良好な関係性を築けるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お看取りさせていただいたご入居者様には、グループ法人で逝去者記念礼拝を実施している。 またご要望があれば介護相談等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中の日常会話から、希望、意向を聞き出すよう心掛けている。困難な場合は家族からヒアリングを行う。またご入居者様の表情やしぐさから予想しアプローチを試みている。	自己決定することを大切にし、食べ物の希望、洋服選び、入浴時間等、二者択一も含め、きめ細かく提案を行い、希望に沿い楽しく過ごしていただくようにしている。食事前後や居室において1対1で話をする時間を設け、気づいた事柄については日々の介護日誌と連絡ノートに纏め、出勤時に確認して日々の業務に取り組むよう徹底している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者様、ご家族様へ入居前訪問でのヒアリングや、入居時にアセスメントシートに記入して頂き把握に努めている。疑問点が生じた場合、ご本人様・ご家族様からヒアリングを再度行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前訪問、アセスメントシートでの情報収集に加え、一人ひとりの生活の中でご入居者様の機能を確認を行う。またご家族様や訪問看護師、主治医の協力のもと把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者様、ご家族様からの要望をヒアリングし全体ミーティング・ユニットミーティング・カンファレンスで支援計画～支援の実施～支援の見直しを行っている。必要に応じて訪問看護、主治医からの意見を取入れプランニングしている。	職員は1～2名の利用者を担当し、家族との連絡、居室管理、足りない物の補充、誕生日会の準備等を行っている。担当職員はリハビリ職員と共に日々の支援の中で行う目標を1ヶ月毎に設定し、また、実施し、アセスメントを行い、家族の希望については来訪時に聞きケアカンファレンスの中で意見を出し合いモニタリングも行いケアマネージャーがプラン作成を行っている。プランの見直しは基本的に3ヶ月に1回行われ、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、一人ひとりに合った支援に繋げている。	

認知症対応型共同生活介護事業所「やまびこの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護用ソフトを用い、個別に記録を残すと共に職員間で情報共有している。またホーム全体、ユニット内での送りやカンファレンス、ミーティングで情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人のリハ職（PT・ST・OT）指導のもとユニットでの体操の実施、ご入居者様のADLに適した支援方法を取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ケア会議や行政からの通知で地域資源の把握を行い、ご入居者様にとって必要な地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人様、ご家族様の希望で決めており、ご依頼があるときは併設の施設協力医を紹介している。それぞれのかかりつけ医と連携を取りながら適切な医療サービスを受けられるように支援している。	入居時に医療機関についての希望を聞き、ホームとしての取り組みを説明している。現在は若干名の方が入居前からのかかりつけ医の月1回の訪問診療で対応している。他の利用者についてはホーム協力病院の在宅支援課の医師による月2回の訪問診療で対応している。また、訪問看護師の来訪が週2回あり、利用者の健康管理と合わせ医師との連携が図られ、24時間対応で万全な医療体制が取られている。歯科については必要に応じ協力歯科への受診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同建物内に併設されている訪問看護ステーションと日常の健康管理、変化のあった場合は24時間体制で連絡を取り相談しやすく早期対応ができる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、支援に関する情報を医療機関に情報提供している。入院状況の把握を行えるように、ご家族様、医療機関と連絡を取っている。また退院時には退院カンファレンスに参加し情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に契約内容、重度化による看取りに関する指針の説明を行い、身体状態に合わせて関係医療機関と協力しながらご本人様、ご家族様の希望に沿った支援している。	重度化や終末期に向けた指針があり、利用契約時に説明し同意書にサインを頂いている。食事や入浴が難しい状態になり終末期を迎えた時には家族、医師、訪問看護師、ホームと話し合いの場を持ち、家族の意向を確認の上、医師の指示の下、改めて看取り支援同意書にサインを頂き看取り支援に取り組んでいる。一年以内に3名の看取りを行いコロナ禍であったが家族には居室で利用者と共に最期の時を過ごして頂き感謝の言葉を頂いている。また、本人に対しては「その人らしく大切に」、お酒が好きだった方にはスポンジブラン等で口に含ませてあげたり、音楽が好きならば居室内に好きな音楽を流してあげたりして、やすらかな時を過ごしていただくようにしている。	

認知症対応型共同生活介護事業所「やまびこの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時や申し送り時にそれぞれのご入居者様に合わせた緊急時の対応を取っている。また同法人看護師による研修会で実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施している。地域との災害時の相互応援協定を締結している。BCP(事業継続計画)の作成を行い災害に備えた対応を計画的に行っている。	11月には消防署員の参加を頂き夜間想定での防災訓練を行い、職員が利用者役になり避難口からストレッチャーを用い、また、非常階段を使い1階まで移動しての訓練を行った。合わせて消火訓練、利用者全員が避難口まで移動しての避難訓練を実施し、緊急時の備えを確認した。年2回緊急連絡網の確認も行い、非常時にはスマートフォンを用いた緊急の一斉配信が行われるようになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体的や精神的なプライバシーの確保ができるよう声掛けや環境整備に努めている。また日々の支援の中で職員同士や管理者から人格尊重やプライバシーの確保についての指導している。	居室でのプライバシーに配慮し、入室の際には「ノック」と「声掛け」を忘れないよう徹底している。言葉遣いにも気配りをし、視線を合わせ一段低い所から話しかけるようにしている。また、排泄介助の際には周りにわかるような声掛けをしないようにしている。合わせて申し送りの際にも利用者につながるような大きな声での会話は避け、利用者一人ひとりの話は他の利用者の前ではしないよう徹底している。声がけは基本的に苗字に「さん」付けでお呼びし、本人・家族の希望で「愛称」でお呼びするケースもある。職員は年1回、法人のプライバシー保護の研修会に参加し意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる声掛けや環境創りに努めている。希望の表出や自己決定の表現が難しいご入居者様に対しては解り易い表現や職員からの提案を行い支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活習慣や意向を職員同士で情報共有し、その日の体調やご希望を確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様と相談しながらその人らしいおしゃれができるよう支援している。なじみの化粧品や髪型、衣類の使用や着用をしていただいている。		

認知症対応型共同生活介護事業所「やまびこの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備、味付け、盛り付け、食器洗い、食器拭きなど出来ることを分担して行っている。季節を感じ楽しんでいただけるよう季節の野菜や果物の提供をしている。	介助が必要な方が三分の一弱で、他の方は自力で食事が出来る状況である。献立は法人の管理栄養士が季節感を加味してた献立を使っている。そのような中、利用者の希望も聞き、正月には「おせち料理」、クリスマスには「ケーキ」等を出し、雑祭りには「チラン寿司」、節分には薄焼き卵を使った「恵方巻」を提供し季節感を味わっていただいている。また、元気な方も多く、包丁を使い調理に参加される方が三分の一おり、他の方も力を合わせ楽しみながら野菜の下処理から後片付けまで参加している。更に、外食が難しい状況下、時折「焼きそば」や「フレンチトースト」等をホットプレートを使い調理して楽しいひと時を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し足りない場合は、好みのもので利用し補充している。個々の状態に合わせて刻んだりミキサーにかけたりし、使いやすい食器を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれのご入居者様に合わせた口腔ケア用品を使い、必要な場合はリハ職(ST)の指導のもと、見守りや一部介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した排泄が行えるよう排泄パターンやしぐさを把握し声掛けや介助を行っている。	自力の方が三分の一弱、一部介助の方が三分の二、全介助の方が若干名という状況である。職員は一人ひとりの利用者の状況を把握しており、排泄表と介護記録も参考にトイレに誘導している。排便については牛乳、お茶、スポーツドリンク等で1日1,000ccの水分摂取に取り組み、合わせてお腹マッサージ等も行い2~3日排便がない時には排便コントロールを行いスムーズな排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の確認を行い記録し情報共有している。食べ物や水分、乳製品の提供、運動を実施しておりなるべく内服薬に頼らない支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に合わない場合は、時間を変えたり日にちを変えたりして支援している。ゆず湯やりんご湯、菖蒲湯等季節の湯を楽しんでいただいている。	全利用者が何らかの介助が必要な状況となっている。お風呂は毎日立てており、希望に合わせて週2~3回の入浴を行っている。入浴拒否の方がいるが決まった職員が対応したり、強い入浴拒否の方には清拭で対応している。入浴剤も使い、「ゆず湯」「菖蒲湯」「りんご湯」等を行い、季節のお風呂も楽しんでいる。また、コロナが収束したら近くの温泉の足湯に出掛ける予定もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの睡眠パターンとそれぞれの生活リズムや体調、活動状況に合わせた睡眠が取れるよう調整している。		

認知症対応型共同生活介護事業所「やまびこの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬、服薬ともに漏れや誤りが無い様、違う職員でチェックを行っている。服薬の変更時は申し送りや記録を通じ職員全員が状況の確認が共有できるようにしている。また薬剤師とも相談しそれぞれのご入居者様に合った内服方法を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事、洗濯など得意なことを役割として行ってもらっている。散歩に出かけ、気分転換を図っている。また、趣味の塗り絵などをして楽しめるよう支援している。また季節の行事や誕生日会を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的にホーム周辺の遊歩道を散歩している。季節を感じられるよう紅葉や花見の外出支援を行い、時にはご家族様の参加もある。日用品や食品の買い物に病院の売店を利用することもある。本年度は新型コロナウイルス感染拡大のため外出制限があり困難になっていた。	室内では歩ける方が多いが、外出時、自力歩行の方と杖・歩行器使用の方がそれぞれ数名で、車いす使用の方が半数強となっている。天気の良い日にはホームの周りを散歩したりベランダに出て外気浴やお茶を楽しんでいる。11月に入り町の作品展が行われ久々に外出を楽しんだという。コロナが収束し、以前のように季節に合わせ須坂の臥竜公園や中野のバラ園、山田温泉等に出掛けられるようになる事を待望している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として現金の所有はしていないが、希望のある場合はご家族様と相談の上管理し使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は自由に電話できるようにしている。手紙の返送もできるよう、はがきの購入や一緒にあて名書きをするなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間の廊下に節句の人形や季節の花を飾っている。天気の良い日にはデッキに出てお茶を飲んだり体操したりしている。リビングや居室はご入居者様の体調や希望に合わせて室温や灯り、音に配慮している。	施設内は広々とした造りで天井も高く開放感が感じられる。可動式の畳スペースや大きなソファが置かれ横になって寛いでいる利用者もいた。オープンキッチンからはホール全体が見渡せ、所在確認も容易となっている。南側窓から出ると広い木製のベランダが設置され、その近くには見事な桜の木があり春には絶好のお花見スポットとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者様のご気分に合わせて家具のレイアウトをその都度工夫している。たたみや椅子、ソファも配置し、移動しながら腰を下ろしたり独りで休んだりできるスペースも用意している。食事は気の合ったご入居者様同士同じテーブルで召し上がってもらっている。		

認知症対応型共同生活介護事業所「やまびこの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた馴染みの道具を持ってきてもらうようお願いしている。好きな花や家族の写真を飾ったりしている。必要な方はテレビやラジカセなども利用している。	十分な広さが確保された居室には洗面台と整理ダンスが完備され暮らし易い造りとなっている。各居室に備え付けのハンガーにはお気に入りの洋服が綺麗に整理され吊り下げられている。持ち込みは自由で、テレビ、衣装ケース等が持ち込まれ、家族の写真や職員から贈られた誕生日のお祝い色紙等に囲まれ自由な生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	腰を下ろしながら洗濯ものを干す場所や、見守りながら調理をできる場所をつくり安全に日常生活を送れるようにしている。		